

齊藤 夕

いよう皆さんと話合つてもっと
外灯をつけましょう。(熊日提唱
の一万灯増設運動実施中)

警察署だより

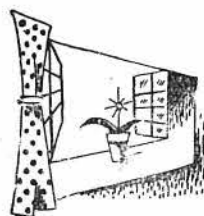
一、少年を明るく環境で育てよう春は学生の進学卒業、就職など心理的な転換期と言われ、また少年の不良化の季節」と言われています。みんな暗い所がたくさんあります。

酒による犯罪や事故をなくしましょう、また押売りよつ払い籍女子へのいたずらなどをなくしましょう

三、外灯をもっとつけましょう

随分外灯がつけられましたがまだ

力で家庭、学校、職場暗い夜道での事故や悪い行いがな



千代 地区	田上一智 (再)
津奈木地区	山口チフ (再)
川南 地区	福田億順 (再)
川北 地区	山下清子 (新)
大泊 地区	山口亨子 (再)
日当 地区	森山シヅエ (再)
日添 地区	吉野ヒサエ (再)
平国福浦地区	福村安則 (再)
小津奈木地区	永松清次郎 (新)

肥薩林産株式会社（社長福村安則）は多額の御寄附により今回日本赤十字社から（章銀特別社員）の称号を贈られました。

松本富美子さん

熊本県一の腕前で
全国大会に参加

金一万
新川の吉沢政記さんが、

村長は故人の遺志に習つた村の福祉のため使用され

就職者壮行会

次の方々が他界されました。
謹みて御冥福をお祈り致します。

[illegible]

前史九

發行所
奈木公民館
北郡津奈木村
（津奈木）24番
岡松 壮
緒方印刷所
代市通町
（代）3118番

齊藤龜齡

昭和三十七年八月十七日村会議決議翌年二月二十三日県議会議決三月六日県議事本会議通過と云ふ工合に、津奈木村を町にす村議会の明確なる判断が、地元である。

出身県議を動かし、遂に県議会の決議を克ち得て、愈々村から町へと脱皮の運びにたちいたったからである。

そちく津奈木村は熊本県の最南端に位し、南に水俣市、鹿兒島県を控え、北は湯浦町につらなり西は不知火海を隔てて天草島を望む絶勝の地である。

面積三二、五一平方杆人口八、六六人の一大集落で、肥薩を結ぶ鹿児島本線、一級国道三号線は汽車自動車の往来昼夜を分たずさ

に於ては、三、大正新国道の全通後は、更に日さまじい躍進をとげるであらう。

産業方面では昭和三十三年、県産業振興計画実施以来青北水俣甘藷ベルト地帯の一環として重視さ

れて、田浦、湯浦に続く農業構造改善事業実施予定地として、大きくローズアツプされた。

年度には潮止工事が実現する運び



津奈木が町に
なつた



今故斎藤藤吉村長の胸像をたてたる美奈が全村民の一致した考えとなり、巨額の寄金等によつて、いよいよ四月一日に町制施行と共に除幕式を行うことになった事も村民が如何に感恩報謝の念に富んでいるかを物語っている。

茲にいよいよ四月一日から町制を施行するに當つて考へる事は、先づ町造りの根本問題は人造りで、

津奈木村は知らぬ間に大きくなつていた。目には見えないが、気づかない中に。知らぬ間に大きくなつて、去年の服がツツルテンになつていたように。津奈木村も「発展していた。果てはめだ町という尺度をあててみたら、りつと合格していた。」

次に産業方面では町民の生活を

町にした方がよい
町に合格はしても、ある人は「町の資格があつても村のままにとよい」と考えるかたもあつた。「町の資格があるなら町にしよう」というかたもあつた。村会では町にするのを万端一で決着した。一般的に、町は少なからず河川に一般進んで決着した。一般的に、町は少なからず河川に一般進んで決着した。

安定向上する一方法として是非農業構造改善事業を誘致し、甘藷ベルト地雷の役割を果たしたい。

着物が変われば心も変わる

一億三千万戸を擁した土地が全農
町の財産となるので、農地は勿論
他に有効適切な利用法も考えねば
ならぬ、町民各位の御研究を促し
たい又各種団体の育成強化に力を

町の衣をぬいで町の善物を齎たところ。
 二二の晴着
 町になったとして、かしまつたり、お返しとなつたりする

そそぎ特に、農協の発展充実には
村経済の源泉たるの素地をつちか
いたいと思う。

ものではない。しかしものはある。ある町になったのを機会により方に利用するか、悪いことに利用するか、あるいは見送ってどこにも利用しないの三つの方法がある。せっかく町になったのだから、心の晴霽に着かえたつりになりたいたものだ。

教育町津奈木」の面目を發揮したい。社会教育では明るい豊かな町作りの基盤としての各家庭の生活の改善、貯蓄の増強（記念貯金）

わが青年団がコースで日本一になったとき、町になる心がきえ十分と思った。三月初の青北青年団総会祭にも桜台の一等をとってきたことも、町を迎える準備OKというべきか。青年団は更に、何をなすべきかを考えることになっている。

等を図つて貰いたい。何はともあれ、村が町になったのである。

より高く発展する機会に



阿蘇宮移転

現在の阿蘇宮(通称大神)が役場の後の、天満宮(通称天神さん)

阿蘇宮は昭和十八年四月一日、印鑑や看板等は書きあらためられ、日か、町制施行の事となつた。父祖の時代から永い間津奈木村と呼ばれてゐたが、これからは津奈木町となる。町という言葉になじめず、いまだに「村が町になつた」といふ、急に戸数や人口が増えるわけではなく、又農村が繁華な町並みをつくる事もない。只これまでの村長は町長と並び、村会議員は町会議員となり、村役人として働く。郡、県、国、更には又原子力宇宙時代となつて

阿蘇宮移転の模様。阿蘇宮は、今から七百年前に創られるようになった。その後の津奈木の住民の尊敬の中心だった。あつた。私達は喜びにつけ、悲しみにつけ苦しむにつけ、大明神の鳥居をくぐつたものである。眼をこめて、はつきりとした石段、森、社殿、相模場など浮ぶであつた。私達の心の中心に思ひ出がいろいろと秘められてゐる。毎年四月十五日の祭、夏の雨の日の祭納だもの、大東亜戦争の戦勝祈願、出征軍人の出発式、子供が生まれて百日まひり、病氣回復の祈願など、思ひ出は一人一人につきないであつた。

阿蘇宮移転の模様。阿蘇宮は、今から七百年前に創られるようになった。その後の津奈木の住民の尊敬の中心だった。あつた。私達は喜びにつけ、悲しみにつけ苦しむにつけ、大明神の鳥居をくぐつたものである。眼をこめて、はつきりとした石段、森、社殿、相模場など浮ぶであつた。私達の心の中心に思ひ出がいろいろと秘められてゐる。毎年四月十五日の祭、夏の雨の日の祭納だもの、大東亜戦争の戦勝祈願、出征軍人の出発式、子供が生まれて百日まひり、病氣回復の祈願など、思ひ出は一人一人につきないであつた。

阿蘇宮移転の模様。阿蘇宮は、今から七百年前に創られるようになった。その後の津奈木の住民の尊敬の中心だった。あつた。私達は喜びにつけ、悲しみにつけ苦しむにつけ、大明神の鳥居をくぐつたものである。眼をこめて、はつきりとした石段、森、社殿、相模場など浮ぶであつた。私達の心の中心に思ひ出がいろいろと秘められてゐる。毎年四月十五日の祭、夏の雨の日の祭納だもの、大東亜戦争の戦勝祈願、出征軍人の出発式、子供が生まれて百日まひり、病氣回復の祈願など、思ひ出は一人一人につきないであつた。

阿蘇宮移転の模様。阿蘇宮は、今から七百年前に創られるようになった。その後の津奈木の住民の尊敬の中心だった。あつた。私達は喜びにつけ、悲しみにつけ苦しむにつけ、大明神の鳥居をくぐつたものである。眼をこめて、はつきりとした石段、森、社殿、相模場など浮ぶであつた。私達の心の中心に思ひ出がいろいろと秘められてゐる。毎年四月十五日の祭、夏の雨の日の祭納だもの、大東亜戦争の戦勝祈願、出征軍人の出発式、子供が生まれて百日まひり、病氣回復の祈願など、思ひ出は一人一人につきないであつた。

阿蘇宮移転の模様。阿蘇宮は、今から七百年前に創られるようになった。その後の津奈木の住民の尊敬の中心だった。あつた。私達は喜びにつけ、悲しみにつけ苦しむにつけ、大明神の鳥居をくぐつたものである。眼をこめて、はつきりとした石段、森、社殿、相模場など浮ぶであつた。私達の心の中心に思ひ出がいろいろと秘められてゐる。毎年四月十五日の祭、夏の雨の日の祭納だもの、大東亜戦争の戦勝祈願、出征軍人の出発式、子供が生まれて百日まひり、病氣回復の祈願など、思ひ出は一人一人につきないであつた。

和歌 一齋に賣状配りに出発の芳をねぎしい見送に立つ 初雷に餅はおぼろ孫たちのこたつに逃げこみ珍しや元且 夫婦とも流涙にこやうし数日を一年生の長女結婚主婚の座 声高かにはしゃおぼろし吾が孫のいつともなく自動車とねむる 成年式集り男女九十名皆それなりに若さだたう 元旦の妻の難儀のうまればかゝ作れと娘にいう 岡松 壯

栄養教室に参加して わさねいる。 聞くところによると阿蘇宮は、今から七百年前に創られるようになった。その後の津奈木の住民の尊敬の中心だった。あつた。私達は喜びにつけ、悲しみにつけ苦しむにつけ、大明神の鳥居をくぐつたものである。眼をこめて、はつきりとした石段、森、社殿、相模場など浮ぶであつた。私達の心の中心に思ひ出がいろいろと秘められてゐる。毎年四月十五日の祭、夏の雨の日の祭納だもの、大東亜戦争の戦勝祈願、出征軍人の出発式、子供が生まれて百日まひり、病氣回復の祈願など、思ひ出は一人一人につきないであつた。

栄養教室に参加して わさねいる。 聞くところによると阿蘇宮は、今から七百年前に創られるようになった。その後の津奈木の住民の尊敬の中心だった。あつた。私達は喜びにつけ、悲しみにつけ苦しむにつけ、大明神の鳥居をくぐつたものである。眼をこめて、はつきりとした石段、森、社殿、相模場など浮ぶであつた。私達の心の中心に思ひ出がいろいろと秘められてゐる。毎年四月十五日の祭、夏の雨の日の祭納だもの、大東亜戦争の戦勝祈願、出征軍人の出発式、子供が生まれて百日まひり、病氣回復の祈願など、思ひ出は一人一人につきないであつた。

栄養教室に参加して わさねいる。 聞くところによると阿蘇宮は、今から七百年前に創られるようになった。その後の津奈木の住民の尊敬の中心だった。あつた。私達は喜びにつけ、悲しみにつけ苦しむにつけ、大明神の鳥居をくぐつたものである。眼をこめて、はつきりとした石段、森、社殿、相模場など浮ぶであつた。私達の心の中心に思ひ出がいろいろと秘められてゐる。毎年四月十五日の祭、夏の雨の日の祭納だもの、大東亜戦争の戦勝祈願、出征軍人の出発式、子供が生まれて百日まひり、病氣回復の祈願など、思ひ出は一人一人につきないであつた。

和歌

栄養教室に参加して

農業 土木氏依頼

日本の農業にもようやく夜明けがき きた。ヨーロッパやアメリカでは、すでに半世紀前に訪れたこの夜明けが、いま、力強く、しかもかなり早い速度で進まうとしてゐる。 今だかつてなかったような、急速な農業労働力の減少、それによって呼ばれた農業生産性の向上へのめざましい前進、この様に私達農家の(意識)と(技術)は今や本町に於ても「果樹の大産地」を理想像として、新しい「村づくり」の革命が初まうとしてゐる。勿論このよう な新しい「村づくり」には数々の挫折もあり、矛盾もあつた。しかし私達はこのような現実の動きを創りに、新しい時代の農業を創造してゆくために、重要な果樹管理の徹底を促進して貰いたいと思つた。

津奈木の現況

区別	津奈木村	区別	津奈木村
人口	8,616人	人口	3,066人
戸数	1,659戸	戸数	375戸
人口密度	259人/ha	人口密度	3,441人/ha
人口増加率	3%	人口増加率	18%
人口構成	3,251Km ²	人口構成	3,441Km ²
人口構成	6.5km ²	人口構成	3,441Km ²
人口構成	9.8Km ²	人口構成	3,441Km ²
人口構成	1,189人	人口構成	3,441Km ²
人口構成	3,986人	人口構成	3,441Km ²
人口構成	5,175人	人口構成	3,441Km ²

町としての要件に関する条例についての資料

- (1) 人口 8,616人 (5,000人以上)
- (2) 中心連たん区域にある戸数1,025戸 全戸数1,659戸の6割2分

部局名	戸数	部局名	戸数
中津川	57	中津川	57
中津川	82	中津川	82
中津川	99	中津川	99
中津川	81	中津川	81
中津川	53	中津川	53
中津川	91	中津川	91
中津川	85	中津川	85
中津川	120	中津川	120
中津川	86	中津川	86
中津川	52	中津川	52
中津川	61	中津川	61
中津川	75	中津川	75
中津川	48	中津川	48
中津川	35	中津川	35
中津川	45	中津川	45
中津川	1,025	中津川	1,025

県・町会議員選挙を前に 県会議員選挙 4月17日 町会議員選挙 4月30日 (選挙管理委員会)

四年毎に行われる、県知事、県会議員、市町村長、市町村会議員の選挙は、よく「直接選挙」として、選挙民の直接に投票することにより、否決に投 票の意向を明らかにするものである。 選挙の意義は、選挙民の直接に投票することにより、否決に投票の意向を明らかにするものである。 選挙の意義は、選挙民の直接に投票することにより、否決に投票の意向を明らかにするものである。

津奈木は昭和十八年四月一日、印鑑や看板等は書きあらためられ、日か、町制施行の事となつた。父祖の時代から永い間津奈木村と呼ばれてゐたが、これからは津奈木町となる。町という言葉になじめず、いまだに「村が町になつた」といふ、急に戸数や人口が増えるわけではなく、又農村が繁華な町並みをつくる事もない。只これまでの村長は町長と並び、村会議員は町会議員となり、村役人として働く。郡、県、国、更には又原子力宇宙時代となつて